ボランティアってなんだろう。
このまちのボランティア活動者に話を聞いてみると、
そこには心温かな想いと
様々な人の暮らしが垣間見えた。
この冊子は、そんなぬくもりにあふれた様子と、
このまちに暮らす人と共に歩む
ボランティアセンターの様子を紹介したもの。

登別市
ボランティアセンター
GUIDE BOOK

若者の想いを育てつなげる

ボランティアセンターでは、学生のボランティア活動への関心や広がりを目指し、ボランティア活動を気軽に体験できる「ボランティア体験事業」や、中学～大学生までを対象とした「学生ボランティア研修事業」を実施し、学生同士や地域住民との交流を通してゆるやかな繋がりを生んでいる。

ボランティア体験事業

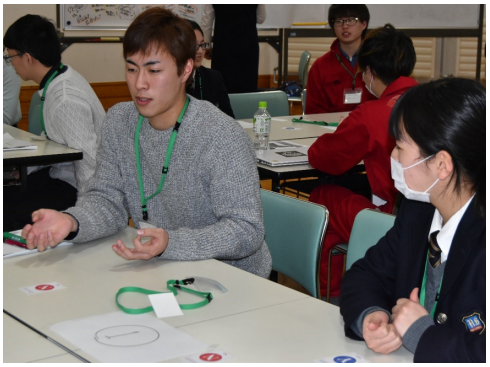
１日から気軽にボランティア活動を体験できるボランティア体験事業。

体験の内容は、障がい当事者団体の行事での「車椅子介助を通した当事者との交流体験」やNPO法人が運営する「地域食堂の運営サポート体験」、「ボランティア団体の活動体験」など50種類以上のメニューがある。参加者は学生から社会人、シニアと様々。

体験を通して、普段できない経験や新たな繋がりも生まれるため、特に学生にとっては実りの多い時間となっている。

自分の将来を考えるキッカケになった
登別明日中等教育学校　髙本さん、荒井さん
※取材当時

普段関わることのない方々と接することで、人との繋がりや支え合うことの大切さなどを学びました。この経験は私達の進路や将来を考える上で、とても良い経験となりました。この経験を活かして、今後も頑張っていきたいです。



学生ボランティア研修事業

学生のボランティア活動への参加促進を目的とした学生ボランティア研修事業。

研修会を通した様々な出会いや体験の中で、「ふくしの心」の大切さを感じ、自身の想いを発信・共有することで次世代を担う学生の健全育成を図ることをめざして開催している。

研修会では、地域で活動する学生ボランティアが普段の様子や大切にしていること、ボランティアに対する想いなどを意見交換しながら今後の活動に向けて意識を高めている。また、これからボランティア活動を始めようとする学生にとっては、活動者の想いに触れながら「自分にはどんなことができるか」を考える機会となっている。

研修会で学生同士が繋がり、他校のボランティアサークル活動に参加するなど、ボランティアの輪が広がるキッカケにもなっている。

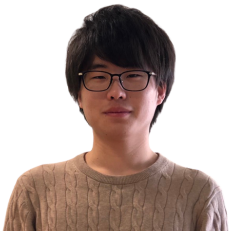
新しい発見や活動の幅が広がった

日本工学院北海道専門学校　藤田さん

※取材当時

普段の活動では他校の学生とボランティアについて話をする機会が少なかったので、こういった場でいろんな人と関わりをもつことができてとても良かったです。

また、他校の活動を詳しく知ることができ、今後の活動の幅が広がる良い経験となりました。



ふくしの心は、「気づき、共に育つ」

ボランティアセンターでは、福祉豊かなまちを目指し、身近な福祉について考える「福祉共育」を行うことで、住民の福祉豊かな心を育んでいる。

そもそも福祉というのは、「ふだんのくらしのしあわせ」。普通の生活を送れることが幸せに繋がる、そのために人と人とが思いやりを持ちながら地域で暮らしていくことが大切ではないだろうか。

福祉共育では、障がい当事者や高齢者、地域住民、ボランティア活動者など様々な人とのふれあいを通して、普段の暮らしぶりやできること・できないことなどを互いに理解し、地域で共に生きていくために「自分達のできること」について考えることを大切にしている。

出前福祉講座

出前福祉講座は、依頼者の希望に沿った様々な学習テーマを通して、講座に関わる全ての人が福祉について学び合えるようボランティア団体や関係機関などと協同して、講座の企画から講師派遣・実施まで行う。

講座は、学校での授業や企業の職員研修などでも行われ、多くの気づきが生まれている。

○主な学習のテーマ

- 様々な障がいの理解について
- 認知症や高齢者に対する理解について
- ボランティア活動の理解について
- レスキューキッチンや福祉用具を活用した防災活動　など

不自由なことはあるけど、不幸じゃない

登別視力障害者協会　松本　優子さん

私は、生まれつき目が徐々に見えなくなる先天性網膜色素変性症（夜盲症）を患って、１０年程前から光も見えない。けれど、今は主婦として家事をしながら天ぷらなどの得意料理を家族に振舞っています。講座では、調理の様子（野菜の千切り）を参加者の目の前で実演して、障がいがあっても工夫すればできることはたくさんあることを知ってもらいながら、「不自由なことはあるが不幸ではない」と伝え続けています。

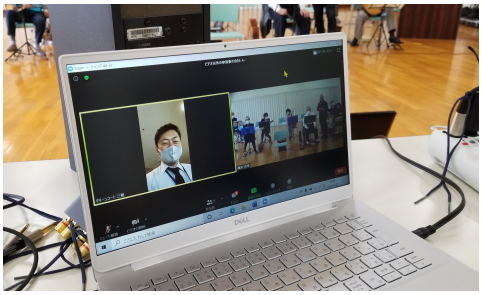
優しい子に成長してもらいたい

鷲別地区民生委員児童員協議会　松平　孝子さん

私は、普段民生委員や子どもの登下校の見守りをしています。

講座では、地域に住む独居高齢者の状況や見守り活動などについて、地域の課題やボランティアの意義にも触れつつお話をしています。普段見守っている子ども達が少しでも福祉の心あふれる子に成長してもらえればという想いで講座に関わらせてもらっています。

活動を支えることは、
そこにいる一人ひとりを支えること



団体間連携のボランティア活動を支援

ボランティアセンターでは、ボランティア活動が地域に広がるよう助成金などの活動に役立つ情報提供や団体間の連携支援、団体立ち上げなど様々な側面的支援を行いながら、ボランティア活動を通して一人ひとりの暮らしが豊かになるようサポートしている。

一つの団体で行える活動には限りがあるが、団体同士が連携することで新たな活動の可能性が広がる。ボランティアセンターでは、そんな団体同士が連携した活動も支援している。

コロナ禍でも施設利用者の皆さんに笑顔を届けたい

コンパニア・デ・マンドリーナ　山口　次郎さん

長引くコロナ禍で、「訪問をしなくても施設利用者の皆さんに演奏と笑顔を届けられないか」。そんな想いからボランティアセンターへ相談したところ、パソコン操作に詳しい“パソコンボランティアプラザ室蘭”協力のもと、「リモート演奏会」として市内の介護老人保健施設へ演奏を届けることができました。

利用者の皆さんも手拍子や口ずさむなどしてリモート演奏を楽しんでくれた様子でうれしかったです。

※1

※2

※3

事業経費をサポート
～きずなのまちづくり助成事業～

ボランティアセンターに登録する団体の活動を資金面から支援するため、団体が行う事業に対して助成している。

この助成事業は、福祉のまちづくりを積極的に取り組む団体が、市民のための福祉活動計画である登別市地域福祉実践計画「きずな」に賛同し、その趣旨に基づき実施する事業に対し、赤い羽根共同募金の支援を受けて助成することで、きずなのまちづくりを進めることを目的としている。

○主な助成事業・活動

- 障がいの理解を目指した交流事業　※1
- 読み聞かせを通した繋がり合う事業　※2
- 子育てに関する講習会　※3　など

団体の立ち上げをサポート

ボランティア活動を行う上で団体を立ち上げて活動の輪を広げていきたい。そんな相談にもボランティアセンターは対応している。

人との繋がりをまちに広めたい

登別まちライブラリー　代表　武者　正樹さん

子どもが生まれた頃、年々薄れる人との繋がりや子ども達の未来に親として何か出来ないかとの想いから、本の貸し借りを通して人とのゆるやかな繋がりをつくる「まちライブラリー」の活動を知りました。この活動をもっと広めたいとボランティアセンターに相談したことがキッカケで様々な人達と繋がり、今では、団体を立ち上げ活動の輪を広げています。

気持ちがホッとするボランティアセンターへ

ボランティアセンターは、ボランティア活動を「したい人」と「必要としている人」の想いを繋げる場所。

その他にボランティアの理解・関心を深める取り組みやボランティア活動者を増やすための取り組み、ボランティア活動のサポートを行うことで、地域福祉の向上を目指している。

団体や個人への活動支援

ボランティア団体や個人ボランティア、NPOの活動に関する様々な相談に応じます。

- 団体の運営に関すること
- 個人ボランティアの相談
- 助成金に関すること
- 団体設立に関すること
- 企業の社会貢献に関すること
- ボランティア保険の加入
- しんた21団体活動室の利用
- 災害ボランティアに関すること
- 研修会などの情報提供　など

ボランティア活動推進のために

ボランティアセンターでは、市民誰もがボランティアに興味関心を持っていただくための事業を多くの関係機関・団体の協力により実施しています。ボランティアの相談は下記までお寄せください。

■お問い合わせ
社会福祉法人　登別市社会福祉協議会
登別市ボランティアセンター
〒059-0016
登別市片倉町６丁目９－１
TEL　88-2080　FAX　88-4546
E-mail　info@kizuna-shakyo.jp
HP　https://kizuna-shakyo.jp
発行　2021年3月